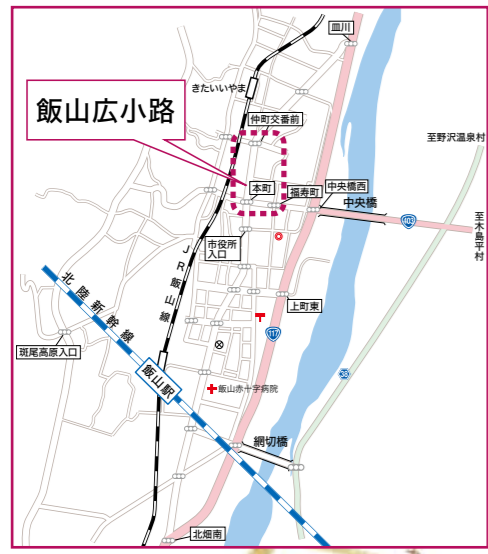


飯山広小路

飯山市は長野県の北端、千曲川に沿って南北に広がる町。西に関田山脈、東に三国山脈が走り、斑尾高原、なべくら高原、北竜湖などの美しい自然に恵まれた地域です。上杉謙信が川中島の合戦に出陣する際、前線となった町でもあります。現在の市街地である飯山駅周辺から北飯山駅周辺は、戦国時代に築城された飯山城のもと次第に形成されていったものです。城下町らしく大小22もの寺が並ぶ、寺の町でもあります。そこではじまった「いいやま広小路会議」。町を思う大人たちの取り組みです。

取材文 山口美緒

飯山広小路の地図



小道を行くと目を引く建物。かつては映画館だったそう



「のたじゅう」付近から北の「城見橋」方面を望む。シャッターを閉めたままの商店も多く、やや寂しい気配が漂う

飯山城址公園

飯山小学校

仲町交番

仲町交番前

食堂なかまち

ヘアサロン むらまつ

関洋服店

杉山林業軌道部

杉山林業軌道部

森電気商会

フルーツやまむろ

清水医院

関スタジオ

jewelry ワタナベ

川口精肉店

ノタヤ文具・楽器

食堂まるや

みゆき野整骨院

中央ショップコア

飯山教会

飯山復活教会

のたじゅう

田中屋酒造店

大原時計店

パティスリーヒラノ

ヒロサワヤ

オンブル美容室

福寿町

中央橋西

市役所入口

尾千代保 稲荷神社

フルーツやまむろの店舗奥には古い木造の建物が川沿いに続いていて雰囲気を醸す

洋の趣も持つ建物。空き家だったものを現在、信徒さんの息子が自ら改修中

医院部分は使われていない。パウハウスのようなデザインを学ぶ場にしても面白いと、風景美術家の田窪氏は語る

飯山復活教会の西に建つ土蔵

中心市街地に活力を

「飯山広小路」は、飯山城跡の南に位置する地区で、仲町商店街と、肴町商店街・福寿町商店街の一部を含む地域です。

飯山市の中心となる商店街のひとつで、衣料品店、履物屋、洋菓子店、写真展、酒造店など、暮らしに密着した店舗が軒を連ねてきました。しかし、郊外型店舗の増え、店主の高齢化、人口の減少、インターネットの普及など、時代の変化のなかで閉店する店が相次いでいるのが実情です。

平成10(1998)年からは、おとぎの国をコンセプトに「おとぎ通り」として整備を行ってきましたが、和の伝統や雰囲気を持つ飯山にあって、時代の移り変わりとともに違和感が生まれてきていたことも否めませんでした。

そこで、平成25(2013)年には長野県が行っている「商店街創造支援事業」に応募し、事業を展開してきたほか、同年10月には、商店主や住民、商工会議所などが一体となって「いいやま広小路会議」を立ち上げ、飯山広小路の未来について検討を重ねてきたのです。



建設当初からそのままに残る飯山復活教会。木造の羽目板が美しい。
長野市西長野にあるレンガ造りの「長野聖救主教会」の創立者で建築家のジョン・ゲージ・ウォーラー司祭によるもの



水尾の銘柄で知られる田中屋酒造店の田中隆太社長



教会で行われた第19回飯山広小路会議にて
(平成27年11月16日)



昭和7(1932)年10月18日、飯山復活教会聖堂
聖別記念日に撮影された信徒らの写真
(提供/関善夫)



田窪恭治

美術家、多摩美術大学客員教授・聖心女子大学講師
ノルマンディー「サンヴィゴール・ドゥ・ミュー礼拝堂」の再生プロジェクトや、「琴平山再生計画」で知られる。1999年村野藤吾賞、2000年フランス芸術文化勲章 <オフィシエ>受賞。著書に『林檎の礼拝堂』『表現の現場・マチス、北斎、そしてタクボ』など。
(撮影/田窪大介)

林檎の礼拝堂内観。7色の絵の具を30回以上塗り重ねたうえから削りだした線の集積で描いたりんごの壁画。凹凸があり、太陽の動きで揺れ動いているように感じる(撮影/田窪大介)



平成27(2015)年9月には、長野県上水内郡飯綱町にある「いいづなアップルミュージアム」で、高さ1.3m、幅7.2mのりんごの壁画を公開制作した(撮影/田窪大介)



金刀比羅宮の境内にあるお茶処「神椿」の壁画も田窪氏によるもの。同境内白書院の襖絵(見学不可)も手がけた(撮影/田窪大介)



林檎の礼拝堂の屋根にはフランスのガラスアーティストにより色とりどりのガラスがはめ込まれ、昼は教会に、夜は空に美しい光を放つ(撮影/田窪大介)

一過性ではない光

そのなかで出会ったのが、風景美術家の田窪恭治氏でした。田窪氏は、フランス・ノルマンディー地方に家族とともに移り住み、約10年をかけて司祭を失って朽ちかけていたサン・ヴィゴール・ド・ミュー礼拝堂の再生に取り組んできた人物です。

移住当初は不審な目で見られながらも、その土地に暮らし続けるなかで信頼を得ていったといいます。礼拝堂は「林檎の礼拝堂」として地域の人たちに愛されるまでに再生され、多くの観光客も訪れています。

その仕事を知って心を動かされたのが、いよいよ飯山広小路会議の代表を務める、田中屋酒造店の田中隆太社長でした。福寿町商店街で老舗の酒蔵を切り盛りする田中氏は、地域に根ざした活動をと、若い頃から「まちづくり」に積極的に関わってききましたが、イベントで終わってしまうことに大きな疑問を持ち続けてきたそうです。

田窪氏の活動に「一過性ではない光を感じた」と田中氏はいいます。縁をたどって、田窪氏と田中氏は出会ったのです。

飯山復活教会との出会い

一方の田窪氏は、「りんご」の縁で平成24(2012)年10月、飯山市の隣町・飯綱町に講演会に訪れました。その際、飯山市にも立ち寄り、そこで出会ったのが飯山復活教会でした。

「第2の運命の出会いのようなものを感じた」と田窪氏が振り返るように、飯山復活教会のシルエットが、驚くほど林檎の礼拝堂に似ていたというのです。

飯山復活教会は、いよいよ飯山広小路会議でも鍵となっていて、信徒も会議のメンバーに名を連ねています。寺の町・飯山にあつて「教会」は異色にも映りますが、建設されたのは昭和7(1932)年のこと。布教活動はその40年前からという歴史のある教会です。異色ではあっても、故郷の風景として記憶されている建物でした。

しかし、在住の牧師が不在となつて約20年、教会のソフト・ハードの整備をしようという思いもありましたが、いかんせん信徒は30名ほど。できることは限られていました。

こうして、町の賑わいづくりへと飯山広小路会議、田窪氏、教会の3つの動きが重なったのです。





撮影/関善夫

飯山広小路再生 トライ・イベント

飯山復活教会のシンボルツリーのもみの木をライトアップした「いいやま広小路再生トライ・イベント」
平成26(2014)年11月8日



田中屋酒造店 改修工事

1階が店舗、奥が酒蔵となっている田中屋酒造店。ファサードと2、3階の内装をリニューアル。ペランダにはCORQ®を敷いた



田窪恭治 表現の場

パティスリー・ヒラノ店内の壁にりんごを描く田窪氏。風がそよぐ気配を感じさせる絵。平成26年3月15日の完成イベントでは田中や酒造店の鏡開きからはじまり、ケーキや日本酒の振る舞いも
(撮影/田窪大介)



チャペル・エントランス 完成イベント

市民参加のイベントで、飯山復活教会のアプローチにCORQ®を敷き詰めたり、花を植えたりした。
平成27(2015)年11月14日



整備のための 寄付を募っています

教会のエントランス整備のための資金が不足しています。ぜひ寄付のご協力をお願いします(1口3,000円〜)。ご寄付いただいた方には先着150名様にCORQ®を1枚記念に差し上げます。
問合せ/いいやま広小路会議事務局
0269-62-3111(飯山市役所商工観光課)



コルテン鋼という、さびでさびを防ぐ鋳物CORQ®。田窪氏が林檎の礼拝堂の再生の最後に、地域に密着する自身の「感覚細胞」として新日鐵住金と協同で生み出したもの

スケッチ(上)
飯山復活教会のアプローチにCORQ®を敷き詰めたイメージ。CORQ®が生み出すさびのある風景は、融雪のために流す鉄分を多く含んだ地下水で道路が赤茶に染まる飯山の風景と強く結びつく
スケッチ(右)
教会の敷地内にとどまらず、周辺の小道にもCORQ®を敷き詰め統一感のある街区に
スケッチ(左上)
教会の西側の広場は現在、駐車場として利用されている。一体的にCORQ®を敷いたら魅力的な空間が生まれる
スケッチ(左下)
隣接した土蔵を改修して、人が立ち寄ることができる美術館などになってもいい



夢を描いて欲しい

田中氏は、田窪氏に「夢を描いてほしい」と依頼します。そして田窪氏が描いたのは、教会の広場に鋳鉄製のCORQ®と呼ばれるタイルがはめ込まれた風景。土蔵も改修し、小道は草花が咲き誇るチャペルロードに――。田窪氏が初めて飯山を訪れて以来、足繁く通い、描いたものでした。これらの絵が飯山広小路の再生に具体像を与え、その後、いくつかの活動が展開されていきます。

平成26(2014)年11月には「いいやま広小路再生トライ・イベント」として、教会で足立正則飯山市長と田窪氏のトークセッションを開催。翌年3月には、メンバーのパティスリー・ヒラノの平野信一社長が田窪氏にりんごの壁画の制作を依頼。公開制作期間や、完成イベントには多くの人が訪れました。同年秋には、田窪氏と同じ制作チームの建築家、塚本章二氏のデザインで田中屋酒造店のファサード工事も行われました。

そして、同年11月、いよいよ教会前のアプローチにCORQ®が敷かれました。まずはアプローチから、将来は広場全体という計画です。

枝葉花プラン

市民の活動を受けた市は、田窪氏をいいやま広小路会議のアドバイザーに迎え、飯山広小路の整備について基本計画を策定していくことを決めました。

「基本計画が幹プランであれば、各店舗の取り組みは枝葉花プラン。自分たちでやれること、行政にしかやれないことを分担してやればいい」と田中氏。

ここに至るまでに市と市民の考え方がぶつかったり、市民同士でも意見が違ったりと、侃々諤々の議論が重ねられました。それも肩書きをとれば、皆、飯山に暮らす人だからこそ、次世代へ良い飯山をとりたい思いがあるからこそ。田中氏はいいいます。

「魅力的でない町や家業であれば、子どもたちに帰ってこいとは言えない。自分たちがそうしてしまつたものを、背負わせることなんてできないですからね。だからこそ、今、誇りをもてる町や仕事にしていきたい」

活動を通じて、大人たちが生き生きと働き心豊かに生きるところこそが町の未来をつくるという思いが、今、飯山広小路に宿りつつあります。

